

足立区内で荒地を農園に変える環境活動をしているNPO「足立グリーンプロジェクト」が、足立区と埼玉県八潮市の境を流れる垢川を浄化する活動に挑戦する。昨夏から始めた荒地での活動には住民に参加してもらい、成功しており、代表の平田裕之さん(29)は「地域の環境問題は、住民がどれだけ関心と意識を持っているかが重要。今までのように行政に頼むだけでは解決しない。今回うまくいけば、将来は日本一汚い川の汚名を持つ緩瀬川の浄化に挑戦したい」と話している。

垢川クリーニング大作戦

足立のNPOがプロジェクト



荒地の農園化に続いて垢川の浄化に挑戦するNPOのメンバーたち

緩瀬川と中川を東西に結ぶ垢川は、両側を水門に隔てられているため、水の流れが少なく、夏になるとたまったへドロの悪臭が周辺

田さんは今年一月、千葉県で開かれた環境関連のシンポジウムに出席して、乳酸菌や酵母などでできたEM菌が全国の海や川の水質浄化で役立っている事例を数多く知り、地元・足立区の川の浄化にもEM菌を使うことを思いついたという。

最終目標は、国内の二級

場(神明一)で、EM菌と赤土を混ぜたEMだんごを地元住民に参加を呼びかけて、約三千個を作ることになっている。作っただんごは、その一週間後に川の三か所に一千個ずつ投げ入れる。八月までに計三回、EMだんごを投入する。

また、参加者には家庭から日常的にEM菌を流してもらう。区もEM菌を増やす機材とその設置場所を提供することになっている。

微生物で 汚れ除去

に広がる。特に水門近くはへドロが約一・五メートル堆積しているという。

浄化の方法は腐敗菌を食べるEM(有用微生物群)菌を川に投げ込むこと。平

河川でもっとも汚いとされた緩瀬川の浄化だが、まずは規模が小さく、効果の判断が分かりやすい垢川で試すことにした。

来月六日に区小溜井排水

平田さんは「行政が機材や場所を、NPOが技術を提供し、実行するのは地元住民という三者の協働で進めるのが今回のポイント。自分たちの努力で川がきれいになったという自信を住民の皆さんに持ってもらえば、川の浄化は相乗的に進むはず」と期待している。